

【熊本県賞】

自然のつながり 熊本県 氷川町及び八代市中学校組合立氷川中学校 二年 松永 幸也

先日、祖母が真剣な表情でテレビを観ていた。ぼくが、「どうしたの？」

とたずねると

「山火事のニュースを観ていた。と教えてくれた。

テレビに目を向けると山の木々が炎をあげて燃えていた。白いけむりも立ちのぼり風向きによっては、灰も人の住む街にとんでいつている様子が写し出されていた。ぼくは単純に「水をかければ消えるのに」と、その時は感じた。

ニュースに関心を寄せ毎日、家族とニュースを見るうちにその地域ではしばらく雨がふっていないこと。大気が乾燥していることを知った。また、風もあり空からの消火が難航していることも分かった。あの時早く雨が降っていたら、もっと早く鎮火したかもしれないと思った。

今回の山火事のニュースを見るたび自然環境に影響はないのか？特に飲み水や水害の影響は無いのだろうか？と考えるようになった。僕は、森林の木々が失われることで木や地面は水をたくわえることができず土しゃ災害などのリスクが高まるのではないかと考えました。くわしく調べてみると、やはり大きな影響が長期的にあることが分かった。その中でも僕が最も注目したことは「水質への影響」のことだ。山火事が発生すると、燃焼した植物や土壌から有害物質や栄養塩が浸出し、河川や湖沼の水質が悪化することがあり、これにより、魚やその他の水生生物に悪影響を及ぼす可能性がある。次に「水源の減少」のことで、山火事によって森林が焼失すると、土壌の浸透能力が低下します。これにより、雨水地面に浸透しにくくなり、地下水源が減少することがあるということ。他にも様々な影響があることを知った。

水は生きていく上で毎日口にする欠かせない物でもありますが、その

水に影響が出て安全に口にできない日々がくるとするならば僕達はどういう生活していかなければならないのか、今の僕には想像もつきません。しかしそのまま知らずにごすわけにはいきません。まず、水にかんする知識をえることで自分のしている行動が環境に優しい、ことなのかを判断すること。日常生活の中で水を無駄にしないように心がける。シャワーの時間を短縮したり、洗濯機を満杯にしてから使用したりする「節水」を心がけたり、雨水を集めて庭の水やりや掃除に使うことで、地下水や水道水の使用を減らすなどの雨水の利用。今あげた以外のことでも水質の保護や再利用など水を有効活用する方法はまだたくさんあります。これを本当の意味で理解し、実さいに行動をしてみたり、まわりの人に広めていったりして、皆で水をまもっていけるように自分なりにかんがえてつとめていきたいです。

火災が終わったというニュースを見ていた時僕はとっさに

「おばあちゃん」

と言った。おばあちゃんは

「どうしたの？」

ときいてきたので自分自身も、なぜおばあちゃんをよんだのかわからない、でもこうこたえた。

「自然はやっぱり守っていかんとね、おれ調べたけど火災も水質とかにつながつとるって、」

そうするとおばあちゃんは

「よくそぎゃん調べたね。一つしよに自然を守っていこう。」

と言ってくれた。

たぶん、あの自然にでた言動は火災や水に対する情熱的な気持ちからきたものだと思う。これからは水、自然を守るためには、日々の行動を意識していくと心にちかった。